2026年　地方本部執行委員長　新春あいさつ

明けましておめでとうございます。ＪＰ労組信越の仲間たち、退職者の会の先輩の皆さま、そしてご家族の皆さまにおかれましては、健やかな新春を迎えられたこととお喜び申し上げます。

年頭にあたり、昨年を振り返りながら若干の所感を述べさせていただきご挨拶とさせていただきます。

昨年１月、両連協において「新春の集い」を開催、ＪＰ労組の旗を開き一年の活動の幕を開けたそのわずか数日後、長野駅前で発生した凶悪な事件によりＪＰ労組信越の仲間の尊い命が失われ、信越全体が大きな悲しみに包まれる事態が起こりました。世界の恒久平和を希求することを綱領に掲げるＪＰ労組の組合員として、「戦争」という大きな事象のみならず、暴力により現状変更や自己主張等を為そうとする全ての行為に対する非難を含め、改めて年頭に「恒久平和」への誓いを新たにするところです。

また、昨年は様々な不祥事案が顕在化した一年でもありました。日本郵便において発覚した不適切点呼問題に対し、国土交通省から一般貨物運送事業許可の取り消しが通知され、その後、軽貨物自動車の使用停止処分へと発展しました。その他、社員による飲酒運転事案や放棄隠匿事案などの不祥事案が発生し、郵政事業のみならず、そこで働く私たちに対する信頼・信用にも大きな影響を与えています。そして私たちは未だその渦中におり、決して過去の話ではありません。現在「社会常識の目線から仕事・職場を再検証する」ことに取り組んでいますが、更に踏み込んで「このくらいなら大丈夫、自分だけは大丈夫、書類の体裁さえ揃えておけば大丈夫」といった意識を私たちの中から一掃し、法令遵守を職場に定着させていくための取り組みを継続していきます。

そして７月、第27回参議院議員選挙の投開票が行われ、皆さま方のご協力のおかげをもちまして、ＪＰ労組組織内「小沢まさひと」議員を再び国政の場へ送り出すことができました。「小沢再選」の喜びはひとしおながら、一方でその内容からは「ＪＰ労組信越の運動が組合員の期待に応えられているのか」という大きな課題を突き付けられたものと受け止めたところです。この大きな課題に対峙することに主眼をおき打ち出した年間執行方針「雲外蒼天“困難の先には明るい未来がある”」では、地方本部が支部や職場に足を運び、職場課題の解決に向けたフォローをしっかりと行い、その実績を一つひとつ積み上げることで仲間の期待に応え、組織を活性化していく――との狙いをもって取り組むこととしています。

ＪＰ労組信越地方本部
執行委員長　花見亮一

私自身、第18回定期地方大会にて地本執行委員長に就任してから５か月が経過しましたが、この年間執行方針に込めた思いは、より熱さを増しています。今年も各支部、各職場を訪問させていただき、仲間の声を聴き、そして堂々とお互いの夢や希望を語りあいたいと思っていますので何卒よろしくお願いします。

結びになりますが、間近に控える２６春闘は、極めて厳しい中間決算、通期決算見通しを受けての闘いとなることが想定される中、足元の経済要求のみならず、２５春闘において「向こう２年を目途に見直す」とした「人事諸制度の見直し」の中間地点という意味でも重要な春闘となります。支部・分会役員のみならず、組合員の皆さま方におかれましては、いつも以上に注目し、議論に参加いただきますよう重ねてお願いいたします。未来は僕らの手の中。共に頑張りましょう